

名刺こうかん会（第6・7時・主活動）

() 組 なまえ_____

領域・形態・時間	話すこと [やり取り] 1対1を4回 20分×2時間
ねらい	名刺カードを渡しながらか名前・つづり・好きなものを伝え合う（単元ゴールの本番）。

やり方 この流れでやってみよう

- 1Hello! I'm _____.
あいさつして名乗る
- 2____-____. (spell) I like _____.
つづりを言って、好きなものを1つ伝える
- 3How about you?
あいてにバトンを渡す→あいても同じように
- 4Exchange cards: Here you are! — Thank you!
名刺をこうかん（Here you are! / Thank you!）
- 5Reaction! Me, too! / Nice! / Really?
もらった名刺を見て、ひとこと反応してからお別れ

名刺カード 点線で切って4枚作る（下がき→ペン書き）

なまえ（大文字で）

すきなもの（絵でもOK）

なまえ（大文字で）

すきなもの（絵でもOK）

なまえ（大文字で）

すきなもの（絵でもOK）

なまえ（大文字で）

すきなもの（絵でもOK）

もらった名刺メモ だれと、なにが同じだった？

回	あいての名前	おなじ！だったもの・びっくりしたこと
1		
2		

3		
4		

ルール

①名刺は1回に1枚だけ渡す ②もらったらず反応のことば ③4回やったら席にもどって、メモを書く

☆レベルアップ！ 余裕があれば質問を足そう: What subject do you like? / Do you like dogs? (ポスターの水色ゾーンが使える)

先生へ（運用のコツ・中間指導）

- ・第6時＝クラス半分ずつ（見る側は「いい反応みつけ係」）、第7時＝全員一斉。見る経験が中間指導になる
- ・名刺の下がきは第5時に済ませておく。当日書かせると活動時間が消える（時数リアリズム）
- ・◎行動観察（思判表）はこの時間。チェックは記録シート（パフォーマンステストの紙）を先取りで使うと二度手間がない

中間指導の進行台本（第6時）

この紙は先生用（1部だけ）：主活動の20分を「1回目 → ことばの補給 → 2回目」のサンドイッチにする先生用の台本。1回目で言えなかったことを、同じ20分のうちに「言えた」に変える——時間は1分も足さない。

20分のサンドイッチ 第6時の主活動20分＝名刺こうかん会①を「サンドイッチ」にする

分	やること	先生のうごき
0-7	こうかん会1回目（前半グループ）	後半グループは「いい反応みつけ係」。先生は「だまってしまった子」を見つけておく
7-9	あつめる：言いたかったのに言えなかったこと	「日本語でOK」と先に宣言する。見る係の「見つけたいいい反応」も1つ発表させる
9-12	英語にする：下の補給表から黒板へ	近いものを書き写し、全員で2回ずつ声に出す（先生がその場で英語を作らなくてよい）
12-13	自分の台詞にもどす	さっき言えなかった子が、となりに向かって1回言えたら準備完了
13-20	こうかん会2回目（前半もう1巡）	「補給したことばを1つ使えたら名人」。同じ相手でもよい——2回目は必ず長くなる

ことばの補給表 「言いたかった」を、ここから黒板に書き写すだけ

言いたかったこと	こう言える	ひとこと
もう一回言って	One more time, please.	「こまったときのえいご」ポスターの1番——この単元で一生の道具になる
ゆっくり言って	Slowly, please.	「～, please.」は何にでも使える
わたしも！（同じのが好き）	Me, too!	あいづちの王様
いいね！かっこいい！	Nice! / Cool!	ひとこと返すと次が続く
（名刺を）どうぞ	Here you are.	わたすときの決まり文句。レストランの単元でまた会う
もらってうれしい！	Thank you! I'm happy!	I'm ～. は名前だけのことばじゃない
先生の名前もたずねたい	How do you spell your name?	単元の質問は、そのまま先生にも使える
またね！	See you!	おわりのあいさつまでが名刺こうかん

表にないことばが出たら
「あだ名で呼んで」「にがてな教科は……」のようなことばは、無理に英語にしない。「それはこれから出会うことば。今日は日本語＋ジェスチャーでOK」と返す——まちがった英語をその場で作らないことがいちばん大事。次の時間に正しい形で持ってくればよい。

先生へ（この20分の勘どころ）
・この20分は主活動そのもの——新しい時間は1分も足さない。第7時のこうかん会②（後半グループ）も、この台本と同じ進行で回せる
・5年最初の単元＝中間指導のやり方そのものを教える回。「言えなかったことは宝物」と宣言すると、1年間の集め方が変わる
・あつめるときは汎用教材の「こまったときのえいご」ポスターを黒板横に貼っておく——補給表とつながって道具が根づく
・はやく言えた子には記録役（班の「言えなかった」を1つ選んで発表）。先生役は頼まない——本人の練習の機会を奪う